

おはようございます。

とうとう明日から冬休みを迎えることになりました。季節が移り変りを早く感じています。2学期を振り返ってみてください。授業や部活動に加え、学校行事において大いに励んでくれましたね。いろいろな場面で自主的に計画をたて、運営し、力を発揮していく姿をたくさん見ることができました。

3年生にとっては進路実現のための挑戦のときでした。一緒に面接練習をしていく中で、就職や進学先で何をしたいか、どう学び成長していくかを真剣に考えている様子を見せてもらい、1年生のころよりずいぶん大人になったと頬もしく感じました。

今年も残りわずかとなりました。新しい年を迎えるにあたり、皆さんはどういう目標を立てますか。その目標は皆さんの夢を実現するための方策につながっていますか。

私は目標を立てるにあたり、歴史に名を残す先人のことばを参考にしています。3つ紹介しますので、参考にしてみてください。

まずは、本校の初代校長である中馬成介先生です。中馬先生は昭和3年4月の開校から昭和21年3月まで初代校長として、本校でご指導されました。開校当初から制定されている校訓「至誠 慈愛 勤労 剛健 自律」のうちでも、中馬先生は、大本は「**至誠**」であると語っています。皆さんはこの「至誠」の意味が説明できますか。「至誠」とは、「きわめて誠実なこと」「そのまごころ」という意味です。「誠実」を校訓にしている学校もありますが、この「至誠」とは「誠実」のさらに上をいく**最上級のまごころを尽くすこと**です。最上級のまごころを持って人に接することを笠田高校の中心と考えた中馬先生。その心は100年近くたった今でも我々の心に刻み付けておくべきものです。

中馬先生の胸像が、自転車置き場の完成に伴い、武道館横から正門前に移動しています。皆さんをいつも見守ってくださっていることも知っておいてください。

次に、大河ドラマ好きの私としては外せない人物、徳川家康です。家康は、小さいころから人質に出され、周りは皆敵の中で育ってきました。成人してからは、生き残るために数々の戦を経験し、最後に勝利し、戦国時代を終わらせ江戸時代の始まりを築いていきました。たくさんの名言を残している中でも、私が気に入っている言葉を紹介します。

「**人の一生は重荷を負うて 遠き道を行くがごとし**」これは、「人生は重い荷物を背負って長い道を歩いていくようなもので、苦労や困難がつきもの。焦らず、忍耐強く、一步一歩着実に進むことが大切。」という意味です。

また、家康は「**願いが正しければ、時至れば必ず成就する**」とも言っています。これは、「願いが正当で、正しい行いをすれば、今はだめでも時が来れば必ず目標は達成される」

という意味です。この2つのことばを合わせると、**成功への道筋**を示しています。

大河ドラマと言えば、この1月から新しく豊臣秀吉の弟である秀長を主人公としたドラマが始まります。秀吉を支え続けたわき役である弟にスポットライトを当てたこの物語に、とても興味を持っています。楽しみです。

最後に、吉田松陰の言葉を紹介します。吉田松陰は、幕末の時代に生きた教育者で、山口県にある松下村塾で伊藤博文や高杉晋作を育てました。尊王攘夷を掲げ、江戸幕府を批判し、29歳の若さで処刑されています。吉田松陰もたくさんの名言を残していますが、その中の1つを紹介します。「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし、ゆえに夢なき者に成功なし」つまり、夢がない者は成功しないという意味です。

今日は、最上級のまごころをもつこと、人生には苦労はあるけれども願いが正しければ必ずそれはかなう、そして成功するためには夢を持つことが必要である、ことをお話ししました。

もう一度皆さんに問いたいと思います。皆さんの夢は何ですか？

今日の話を参考に、この冬休みに自分自身のことや自分の将来のことを考え、夢や目標について考えるきっかけにしてください。

新学期もまた、皆さんの明るくて元気な姿を見られることを楽しみにしています。